

2020年（令和2年）度

特定非営利活動法人自遊の広場 事業計画

2006年10月、当法人が設立。はや14年目である。その間、主に小規模多機能型居宅介護支援事業を行ってきた。すずかけの家である。

そこで私たちは、年をとっても自分らしく生きたい・住み慣れた家や地域で暮らしたい・そこが自分の居場所であり続けたいという、人の思いを保証しようとふんばってきた。

ここにきて、小規模多機能の有効性・重要性を実感すると共に、課題も浮き彫りになってきたように感じる。

例えば、以下の点である。

- ① 介護保険上でのマイナス面
 - ・ 登録者しか利用できない
 - ・ 「住む」ことができない
 - ・ 高介護（3、4、5）者には不向き⇔24時間のケアは不可能に近い／小規模の保有単位等制度上訪問看護、訪問入浴などとの「多職種協働」が難しい
 - ・ 低介護度者にも服薬管理等サービス提供量が増える——結局、人件費を圧迫するか、利用者及び家族が入所施設志向となってしまう。
 - ② 人が暮らすのは、介護だけでなく多面にわたる。それに十分応えきれてない
 - ③ ②に加え、災害時等サービス提供のない日は誰が責任もって助けるのかの問題
 - ④ ②③を解決するには、インフォーマルな社会資源を含む「地域力」が鍵となる。
- その点牧野の篠原は、地域力の強い地区といえるのだが。

私たちは今漠然と、こんな風に考えている。

すずかけの家を補完する、かつ登録者以外も住む機能を持ち、地域住民始め誰もが楽しんで利用できる場所・機能を持つこと。

具体的には、シェアハウス・サ高住のようなもの。高齢者・障害者・若者・外国人まで視野におき、その誰もが居場所として実感できる場所。食堂など住民と触れ合える、あるいは何でも相談できる機能。畑や動物飼育などあらゆることを通して、お客さんではなく主人公でいられる空間や時間が欲しい。

まず家・場所探しから、と一歩踏み出した。篠原に拠点を持ちたいが、藤野町全体を見ても力を持った諸資源がある。

必要なものとして、知恵・アイデア、人、資金などすぐに思い浮かぶし、どれをとっても簡単にはいかないだろうとは思う。

でも、これまで培った経験や人脈を生かして、次のステップに取り掛かっていきたい。